

温帯低気圧に変わった台風に関する情報の発表方法の検討 説明資料

【懇談事項 2】

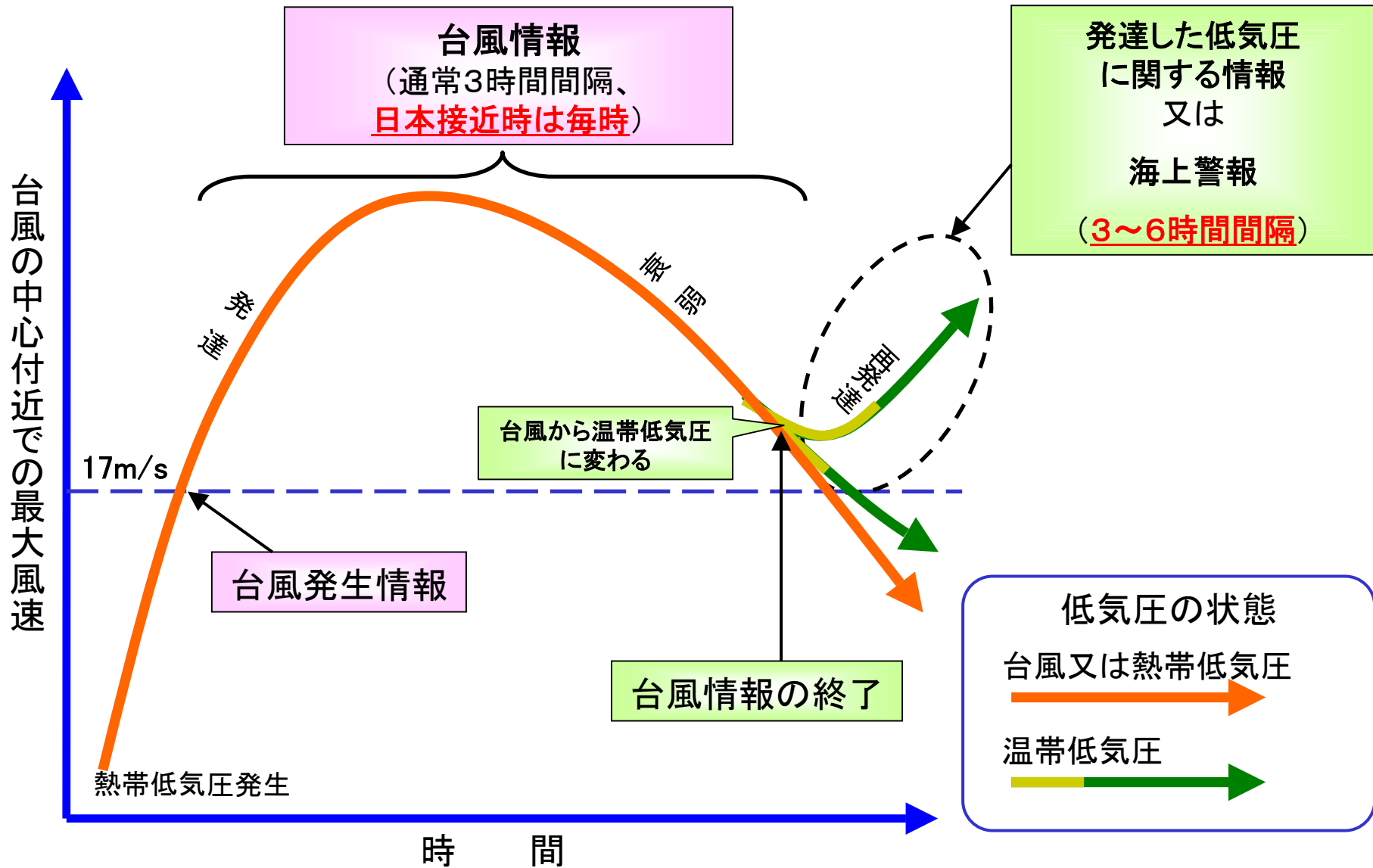
- 台風から温帯低気圧に変わった後も、台風時と同様の警戒を促せるような情報の発表方法について懇談する。

平成17年12月14日

台風情報の表示方法等に関する懇談会(第1回)

気象庁予報部

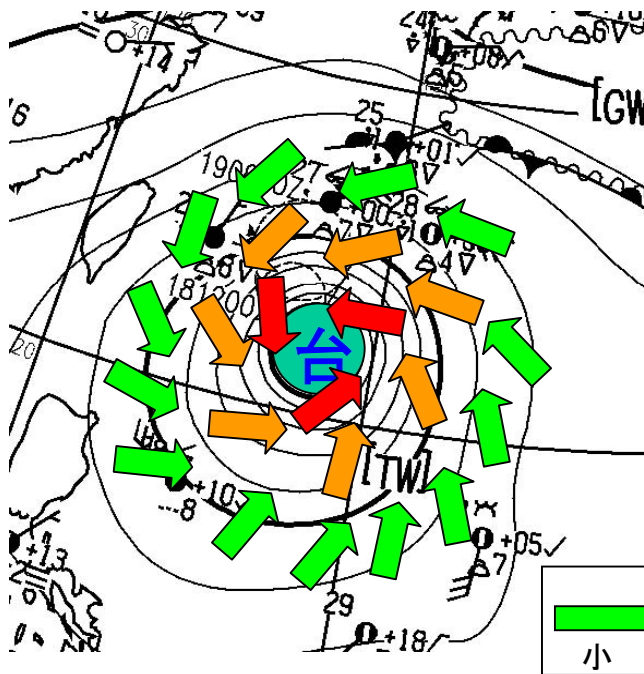
1 台風から温帯低気圧に変わるまでの情報発表の現状



2 台風と温帯低気圧の特徴の違い

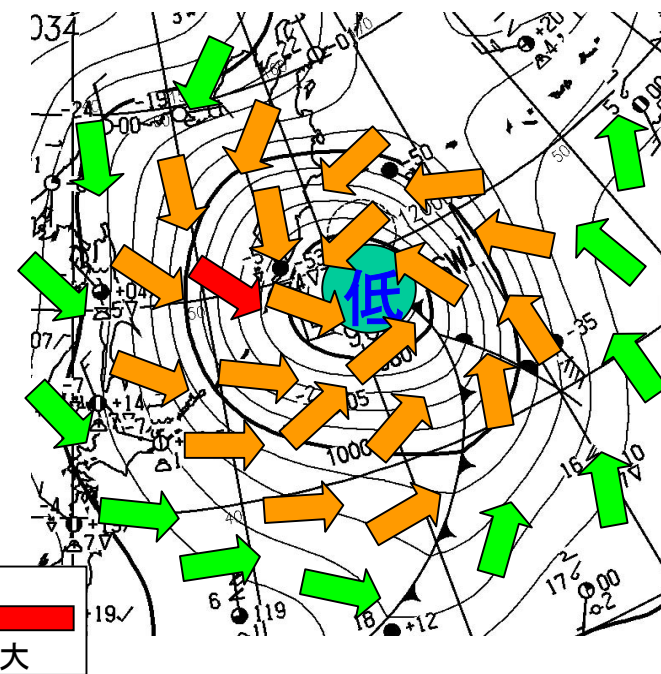
台風(熱帯低気圧)

中心付近ほど風が強い



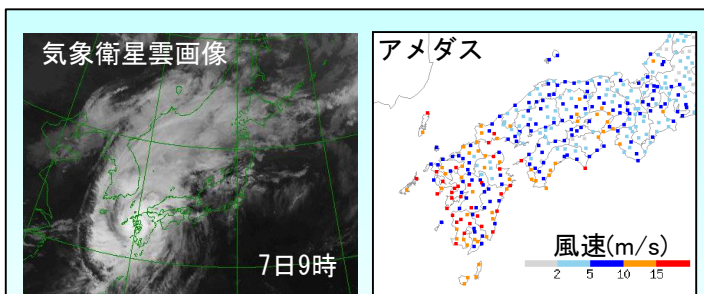
温帯低気圧(発達した場合)

風の強い領域が広く、
中心から離れた場所でも風が強い

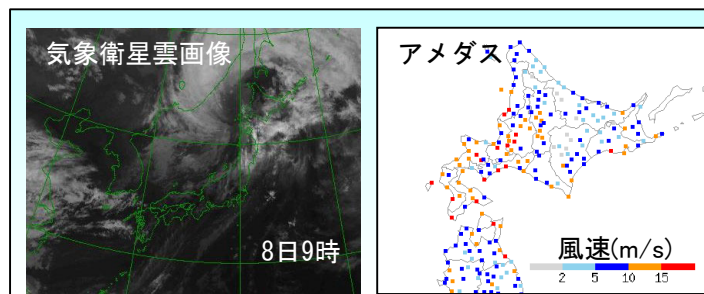


台風から温带低気圧へは徐々に遷移していく

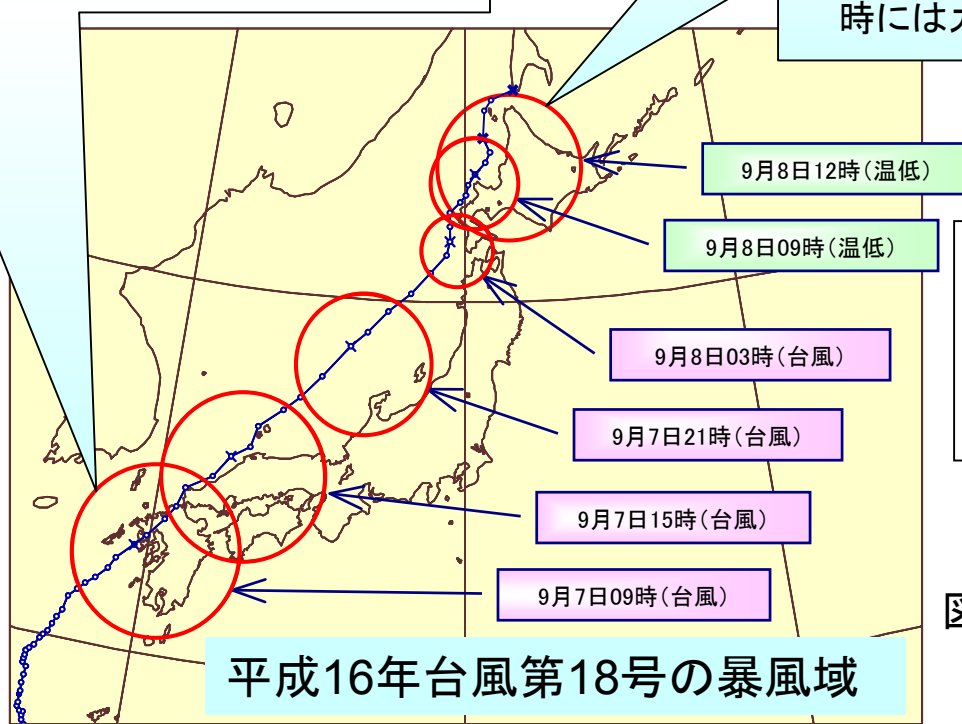
3 台風から温帯低気圧に変わる過程の事例



- 台風が強い勢力のまま九州に上陸
- 衛星画像では台風の特徴である渦巻きを示す
- 広い範囲で暴風が吹いている



- 台風が温帯低気圧に変わり北海道に接近
- 衛星雲画像では渦巻きの形がなくなる
- 一旦狭くなった暴風域が再び広がり、12時には九州上陸時に匹敵する広さに



平成16年台風第18号の暴風域

- 北海道で最大瞬間風速50m/s以上の猛烈な風を観測
- 風による倒木、転倒・転落などにより死傷者が発生

図中の○は、暴風域を示す

4 現在の発表方法での課題

<現状>

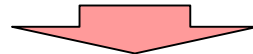
- 台風から温帯低気圧になると、気象庁は「台風情報」の発表を終了
- 「発達した低気圧に関する情報」もしくは「海上警報」により温帯低気圧に関する気象情報を発表する。

<防災対応上の問題点>

- 気象庁からテレビやラジオなどの報道機関や防災機関へ提供する情報量が減少する。
- 台風に匹敵する暴風・強風が広い範囲で発生するような状況でも、関係機関での防災体制が緩められる傾向がある。

<改善の方向性>

台風が温帯低気圧に変わっても、台風時と同様の警戒を促せるような情報の発表方法を策定する



<課題>

- 温帯低気圧に変わった後も、台風に準じた情報を提供する
- 『低気圧の中心から離れた地域で強風が吹いている』という温帯低気圧の特性に応じた情報を伝える

5 温帯低気圧に変わった台風に関する情報発表案

- 温帯低気圧の特徴を持つようになったとしても、防災上重要な場合は、台風情報としての発表を継続する。
- 温帯低気圧の特徴（台風の中心から離れた広い範囲で暴風になる）が理解されやすいよう、情報文中に“広い地域で暴風に警戒”などの表現を用いた警戒文を含める。
- 毎時の情報提供を継続する。

《発表文例》

平成〇年台風第●号に関する情報第□号

（見出し）

台風は温帯低気圧に性質を変えつつ、勢力を更に発達させながら、×時頃には北海道の△△へ進む見込み。北海道の◇◇を中心とした広い地域で暴風への警戒が必要。

（本文）

大型で強い台風第●号は、×日×時には、北海道の……

6 情報発表案による効果

